

## 広水仮設セーフティーネット（岩手県）

### 活動地域の紹介

こんにちは。岩手県陸前高田市から来ました、広水仮設セーフティーネットの村上と申します。同じく中平です。お願いします。

私たちの活動拠点であります、陸前高田市というのは岩手県の沿岸南部にあります。先の震災では、皆様から多大なご支援・援助をいただいております。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私たちが生活する仮設住宅の旧広田水産高校仮設住宅は、陸前高田市の広田地区にあります。正式名称では広田水産高校仮設住宅で、略して広水仮設と我々は呼んでおります。

広田水産高校は平成 20 年に閉校になった高校です。そのグラウンドに 132 戸の仮設住宅が建設され、2011 年 7 月 3 日から多くの住民がここで生活しております。



### 団体発足の経緯

2011 年 10 月に広田地区防犯協会様より自警団の設立の打診が仮設住宅の自治会にありました。このときは自警団の設立意義・活動内容等について、若手と若干意見の食い違いがあり、この話はいったん立ち消えになっておりました。

ただ、20～40 代の若手の中では、理由は後で述べますが、自警団そのものは絶対に必要であろうという話が多くありましたので、独自に話し合いを持ち、防犯協会にも仮設住宅の自治会にもとられない、「自分たちの仮設住宅は自分たちで守ろう。」ということで、自警団「広水仮設セーフティーネット」を結成するに至りました。私たちは通常「ネット」と呼んでいます。



## 活動内容～夜間パトロール

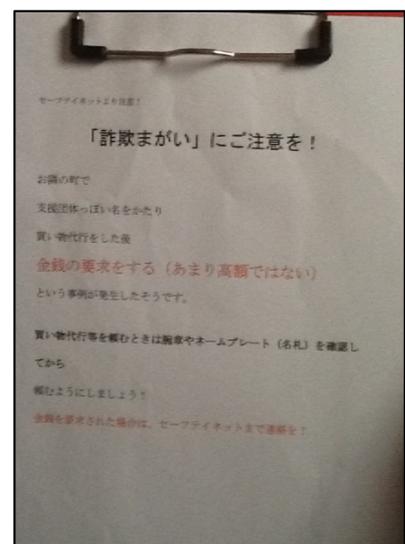
自警団の存在については絶対必要であろうという理由が、独り暮らしの女性であるとか、子どもを持った親御さんたちから、夏場に仮設住宅で不審な足音がするという話が聞かれていました。仮設住宅内の通路は、今でこそ舗装されていますが、その当時はまだ砂利道で足音が大変よく聞こえる状態でした。仮設住宅というのは壁が薄いものですから、余計大きく響く。だから怖いという話が聞かれていたのです。また、駐車場についても、車にいたずらをされている仮設住宅が多くあるといううわさが耳に入ってきました。そこで先ほどのネットの男性会員を3つの班に分け、毎晩、仮設住宅の周辺及び駐車場周辺をパトロールすることにしました。当初、1班につき大体 15 名ぐらいのネット会員がいたのですが、当時と今ではだいぶ様相が変わり、仕事に復帰した方が多くありまして、パトロールの参加者が減り、今では大体1班につき6～8名でパトロールしております。この班は1週間単位で交代して活動しています。



## 活動内容～独居老人宅の訪問

もう一つが、独り暮らしのお年寄り宅への訪問です。仮設住宅に何人か独り暮らしのお年寄りが住んでおります。そのうちの一人が広田地区以外から一人で入居され、しかも 90 歳を超える高齢者でした。初めは友達もいなくて、一人ぽつんと寂しくしていたのをよく見掛けていました。そこで、ネット会員の女性部に、定期的にお話に行ってくれるようお願いし、月に1回、女性が4～5人で独り暮らしのおばあちゃん、おじいちゃんの所を訪ね歩いて、お話を聞くことにしております。

お話の内容については、「普段困っていること、不便なことは何かない？」という形で話を聞いております。その中で、冬になった際に、水道の凍結予防のやり方が分からないという話がありました。陸前高田市というのは比較的温暖な地区で冬期間でも余り水を落とすということをしなくていい地域なのです。ところが、仮設住宅は壁が薄いので凍結の心配が出てきて、地元の人でやり方がわからないというおばあちゃんが結構いました。それで、天気予報を見て、朝の最低気温が氷点下5度以下の日には、会員の間では「コウゲキ」と言っていました。おばあちゃんたちのところに水を落とすしに行って、



ついでに「おやすみなさい。」と言って帰ってくることを3月下旬までやっておりました。

夜間パトロールでは日誌を付けておまして、おばあちゃんたちの訪問の際や、大きな地震があったときも、様子を見に行つて「おばあちゃん、大丈夫、元気」というふうに声を掛けて、日誌にも回つたということを書いておきます。

あとは、警察のほうから詐欺まがいのことが横行しているという情報が入ったときには、注意を呼びかけるチラシを作つておばあちゃんたちに渡しておきます。

## その他の活動

### (3) その他

冬期間の階段道路の封鎖(急勾配であるため凍結時の事故が予想されたため)、駐車場・仮設住宅内通路の陥没箇所の砂利敷き、仮設住宅軒下のダクトの自主点検(解放しっぱなしでは水道の凍結が予想されたため)等々、会員間で話し合い、必要と認められる事項。



その他の活動としまして、冬期間の階段通路の封鎖があります。閉校になった高校の降りる所が急勾配なのです。夏場であれば手すりを使って昇り降りできるのですが、冬場で凍ったときにはちょっと危険であるということで、自警団及び自治会長さんに交渉して冬期間は閉鎖させていただきました。また、これはまだ実現できていないのですが、周辺の急勾配の土手が冬になると危険なので、これから何か対策を考えようとしております。そのほかには、仮設住宅内の通路の陥没箇所の砂利敷きであるとか、

住宅の軒下のダクトの自主点検であるとか、これは開放したままだと凍結が予想されるため全員で話し合つて、やったほうがいいという活動は自主的に行つております。

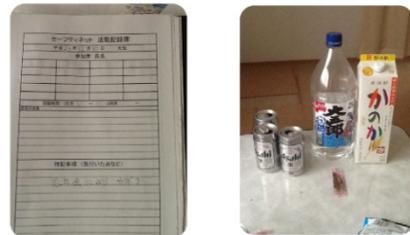
## 活動頻度

夜間パトロールについては、ほぼ毎日行つています。ただ、これは警察の指導がありまして、人数が少ない場合は活動しないでください、危険でありますということで、参加者が4人以下の時には活動しないということを決めて行つております。

女性部集会は独居老人宅訪問に合わせて月1回、お茶飲み会をやっており、その場で親睦と情報交換を行つています。あとは、ネット会員の親睦を目的とした忘年会を行つております。午後8～10時までは夜間パトロールをするのですが、その後アルコールを少し入れて体を温めて親睦を深めております。

### 4. 活動頻度

- 夜間パトロールはほぼ毎日。女性部集会は独居老人宅訪問日に合わせて月1回。ネット会員の親睦を目的とした「忘年会」を年1回。その他必要と思われる際には随時集合。



## 活動効果

夜間パトロールを行つたことで、夏場に話のあつた不審な足音等は無くなったと、仮設住宅の住民から喜びの声をいただいております。あと、1度だけですが、仮設住宅の敷地外の不審者にも対応したこと

があるため、仮設住宅の周辺に住んでいる方たちからも「ありがとう」という言葉をいただいております。

独居老人宅の訪問に関しては、コミュニティがものすごく良くなり、今では向こうから手を振って近寄ってくれるという状態です。今回のプログラムにも書かせて貰いましたが、地震のときに様子を見に行ったときのおばあちゃんたちのホッとした顔は、ちょっと忘れられないねとみんなで言っているところです。

先ほど、アルコールの写真がありました。一緒に行動するにつれて会員同士のコミュニケーションが深まったということが挙げられます。広田地区といっても何カ所かの集落がありますので、普段顔見知りでない人が何人もいました。ただ、一緒に行動しているうちに仲良くなったということがあります。さら



さらに、おばあちゃんたちの笑顔や、子どもたちが「お兄ちゃん」と言って走り寄って来るあたりからも、住民同士のコミュニケーションの深まりが感じ取れます。

## 今後の課題

今後の課題としましては、防犯協会とか、自治会とか上部団体を持っておりません。それで資金面に関してちょっと苦労しています。例としましては、仮設住宅の玄関のことがあります。玄関灯があるのですが、風除室に覆われてしまった関係で通路が非常に暗いのです。夜遅く仕事から帰ってくる女性が怖がっているという情報があります。非常に暗くなっているのです。これは会員同士でガーデン用のソーラーライトがあればいいねという話をしていたのですが、資金面で折り合いがつかず、ある団体に話をしたら「大丈夫、私たちが支援してあげます。」ということで、ガーデンライトが届きまして、今年の夏にこれを設置する予定にしております。

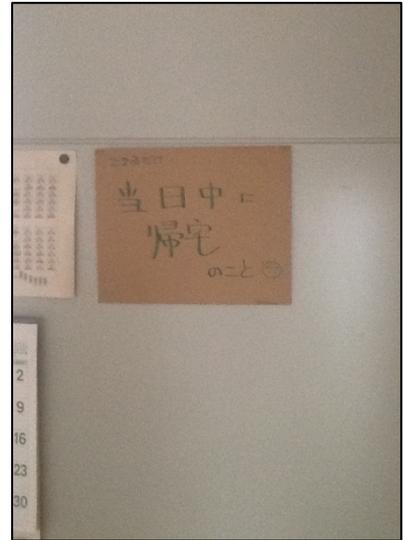


もう一つの課題が、外部団体との情報調整です。これは大変重要になってくると思われます。どういうことかという、仮設住宅の周辺に急な坂があり、ここを私たちとしては子どもたちが入って危険だということで封鎖したいのです。ところが、実はその坂の下に保育園があり、この前の津波の際に、保育園の

園児たちがこの坂をよじ登って逃げてきた形跡があるのです。ここを閉じてしまうと、万が一津波や災害があった場合、避難できなくなる。でも、普段の生活では危険である。これをどうしようかということで市役所であるとか、自治会であるとかと、これから相談して決めようと思っております。

最近、私たちのコミュニケーションが余りにも良過ぎて、奥様たちから「うちの旦那を早く帰してください。」と言われることがありました。詰所内の壁に張り紙をして、「なるべく当日中に帰るよう。」という指導をしております。

私たちの目的は、子どもたちが安心して仮設住宅の前で走り回って遊べるようになれたらいいというのが一番の目的だと思っております。それに向けて、これからもできることは自分たちでやろうということで活動を続けていきたいと思っております。



#### 質疑応答

●質問 私は独居老人宅を1カ月に1回どころか毎週回っております。そして、冬期の雪の多いときは、雪かきもやります。高齢者は雪かきなどできません。月1回では少ないのではないですか。

○回答 ご指摘、ありがとうございます。まず、雪に関しては、私たちが住んでいる広田半島というのは冬期間でもほとんど雪がない地域です。5センチ積もれば大雪だと騒ぐ地域で、実際、今年の冬は1回ありましたが、その際は90歳のおばあちゃんの所は、私たちが雪払いをしました。あと、月に1回では少ないのではないかという話なのですが、これは全員で訪問しに行くのが月に1回ということで、あとはその都度気がつく度に誰かが訪問して、声を掛けて歩くことは継続しております。

●質問 広水仮設の仮設住宅は全部で何戸ぐらいあるのですか。

○回答 132戸あります。

●質問 独居のお方というのは。

○回答 8戸です。そのうち、全く身寄りのない方は90歳のおばあちゃんだけで、残りの独居老人は親類が同じ仮設住宅にいらっしゃいます。ですから、水落としなど親類がいる所は、その親類に「今日行ってちょうだい。」というふうに声を掛けています。あと、仮設住宅は部屋と部屋との間の壁がものすごく薄いです。ですから、寝言も聞こえます。詰め所で飲んでいたら、隣の部屋の壁に背をもたれていた方が、いきなり「わっ」と言い出して、「どうしたの。」と言ったら、「後ろから何か聞こえた。」と。それは、おばあちゃんの寝言だったという。笑えないような笑い話があります。